分水良寛史料館

よもやま話

訪問者アレコレ2

分水良寛史料館には全国各地から色んな人が訪ねてくる。ある時、三重県の桑名から当館を訪れた夫婦から、廊下に掲示されている『分水の略年表』に目をとめ、「こちらは幕末は桑名藩の領地だったのですか」と尋ねられた。『略年表』には、「文政6（1823）年、横田、砂子塚、五千石は桑名領となる」とある。〝飛び地〟であったのだ。

桑名領となった10年後、天保4（1833）年に村人たちが柏崎陣屋に大河津分水路着工の許可を請願。日の目を見なかった。天保10（1839）年、『柏崎日記』の作者で桑名藩士の渡辺勝之助が、桑名から柏崎陣屋に赴任して来る。天保13（1842）年、桑名藩主は再度分水路着工の願書を老中の水野忠邦へ提出。勝之助はその検分のため五千石、野中才へ赴いている。『柏崎日記』にはその願書提出の様子や検分の行程が書き残されている。この願書も聞き届けられることはなかった。

時代は激動の幕末を迎え、柏崎陣屋にもその余波は及んだ。慶応4（1868）年、桑名藩主の松平定敬は大阪城を脱出、130余名の藩士とともに新潟から北陸道を南へ、柏崎陣屋に3月30日到着。出迎えたのは勝之助の次男の渡辺平太夫であった。勝之助は元治元（1864）年、柏崎で63歳の生涯を終えている。

▲大河津分水は先人たちの強い思いにより実現した。

分水良寛史料館
☎0256・97・2428
（月曜日休館）
■入館料
大人300円
学生 200円
小中学生 100円
※団体割引あり

1922-2022 100 大河津分水通水100周年

大河津分水コラム

次の100年に向けて 寄贈された大河津分水の資料

信濃川大河津資料館には、燕市の皆さんから多様な資料を寄贈いただいています。工事の写真や絵葉書、体験談や手記、工事で使用した道具や機械の部品など、どれも大河津分水が多くの人々の手によって造られたこと、維持されてきたことを示す大切な証です。そして、寄贈してくださる皆さんが必ずと言っていいほど仰ることは、その資料を保管されていたご家族のことです。「祖母が大切にしていたんですよ…」「父は大河津分水の話をすると嬉しそうにして…」

たくさんの資料に囲まれた中で仕事をしていると、ふと誰かがいるような気配を感じることがあります。先人たちは今もなお大河津分水を、私たちを見守ってくれている、そんな風に感じる瞬間です。通水100周年の節目の年は過ぎていきますが、大河津分水と共に歩んだ人々の想いは決して色あせることはありません。これからも皆さんと一緒に大河津分水を、燕を伝えていきたい、令和4年は私たちが進むべき方向を再確認させてくれた年となりました。

▲信濃川治水紀功碑の前でのスナップ写真。

▲トロッコの方向転換機とレール。

▲大河津分水の絵葉書。

地域おこし協力隊の奮闘日記 vol.57

こんにちは、観光担当の久保です。

今回は、今年3年振りにリアル開催となった「燕三条工場の祭典2022」を紹介します。

昨年秋に移住して、初めて工場の祭典に関わった時は、車移動も慣れていない、地域のことも全く知らない状態で、言われたことを作業することで精一杯でした。今年は10周年を迎える節目で、オフィシャルツアーに同行し、参加者の皆さんが地域の職人と交流することで、お客さんが感動している様子や、協力企業の皆さんが試行錯誤で場を盛り上げながら熱心に技術を説明されている様子を近くで体感でき、学びの多い時間を過ごすことができました。規模は縮小しつつ、感染対策にも考慮した中ではありましたが、「また来たい！」という声がこれからも続くように頑張りたいと思います。

燕市地域おこし協力隊
久保 充穂
（写真右）

camera view

●「広報つばめ」だけでは物足りないあなたへお送りする「Web版カメラびゅう」
https://www.city.tsubame.niigata.jp/keikaku/koho/2_1/index.html

●市内の出来事や、頑張っている皆さんの姿を紹介するコーナーです。

おめでとう！ J2優勝＆J1昇格

●11月10日　燕市役所

J2優勝とJ1昇格を果たしたアルビレックス新潟。ご当地応援選手の島田譲選手が市役所を訪問。来季の活躍も期待しています。アイシテルニイガタ。

珈琲セミナー 晩秋の巻

●10月26日　粟生津体育文化センター

業界40年のプロ・齋藤悦美さんを講師に、「珈琲セミナー」を開催しました。コーヒーのおいしい飲み方や器具の使い方、豆の選び方などを学びました。

4年に1度の燕市開催 熱戦のスワローズカップ

●11月12・13日　スポーツランド燕

松山市、西都市、浦添市を招き燕市開催となった今年のスワローズカップ。ヤクルト球団の山崎選手、太田選手、つば九郎をゲストに迎え、大盛り上がりの大会となりました。

信濃川の愛護看板がお披露目！

●10月31日　横田切れ公園

島上小学校4・5年生の児童31人が、信濃川に対する愛護の思いを寄せてデザインした看板が完成。お近くへお立ち寄りの際は、ぜひ足をとめてご覧ください。

今月のつばめっ子

●元気なつばめの子どもたちの様子をお届けします！

「大河津分水通水100周年記念メニュー」地元の農産物をおいしくいただきました

●10月25日　分水小学校

通水100周年を記念した給食メニューが市内の小中学校で提供されました。米をはじめ、きゅうり、なす、枝豆など、地元の食材をふんだんに使用。子どもたちは大河津分水がもたらした恵みに感謝しながら、記念給食を味わっていました。

なるほど！長善館

長善館史料館　☎0256・93・5400

●1833年に創設された私塾「長善館」。革新的な教育を行い、約80年の運営で約1000人の塾生を輩出しました。

▲1881年創業のイタリア軒。屯はここを支援し食文化の向上を図った。

◀竹山屯（1840～1918　16歳で長善館入門、文臺に学ぶ）

燕市熊森の医師の4男に生まれた竹山屯は幕府の医学所や長崎で医学を修めました。維新後は新潟医学校（新潟大学の前身）の校長を務め、眼病、コレラ防疫、ツツガムシ病の研究に大きな功績を残しました。

一方で、当時は珍しい写真を得意とし、父や兄はじめ家族の写真を残しています。肉食や牛乳の普及を進め、県民の食生活の改善にも貢献、新潟の文明開化のリーダーでもありました。行きつけの〝イタ飯〟を写真に撮り、洋食を広めたことは想像に難くありません。